

8-5 マクロ分析

8-5-1 マクロ分析の流れ

マクロ分析にあたっては災害ハザードと人口分布（500mメッシュ）の情報を重ね合わせ、それらの重なりを見て災害リスクの高いエリアがどこに存在するか分析します。

本分析における災害リスクが高いエリアの定義は、「人口集中地区（DID）の設定基準単位である人口密度40人/ha以上で、かつ災害ハザードが含まれるエリア」とします。なお、洪水浸水及び津波浸水については、一般的に膝の高さとなり、避難が困難となる浸水深0.5m以上のエリアとします。

マクロ分析は以下の流れで行います。

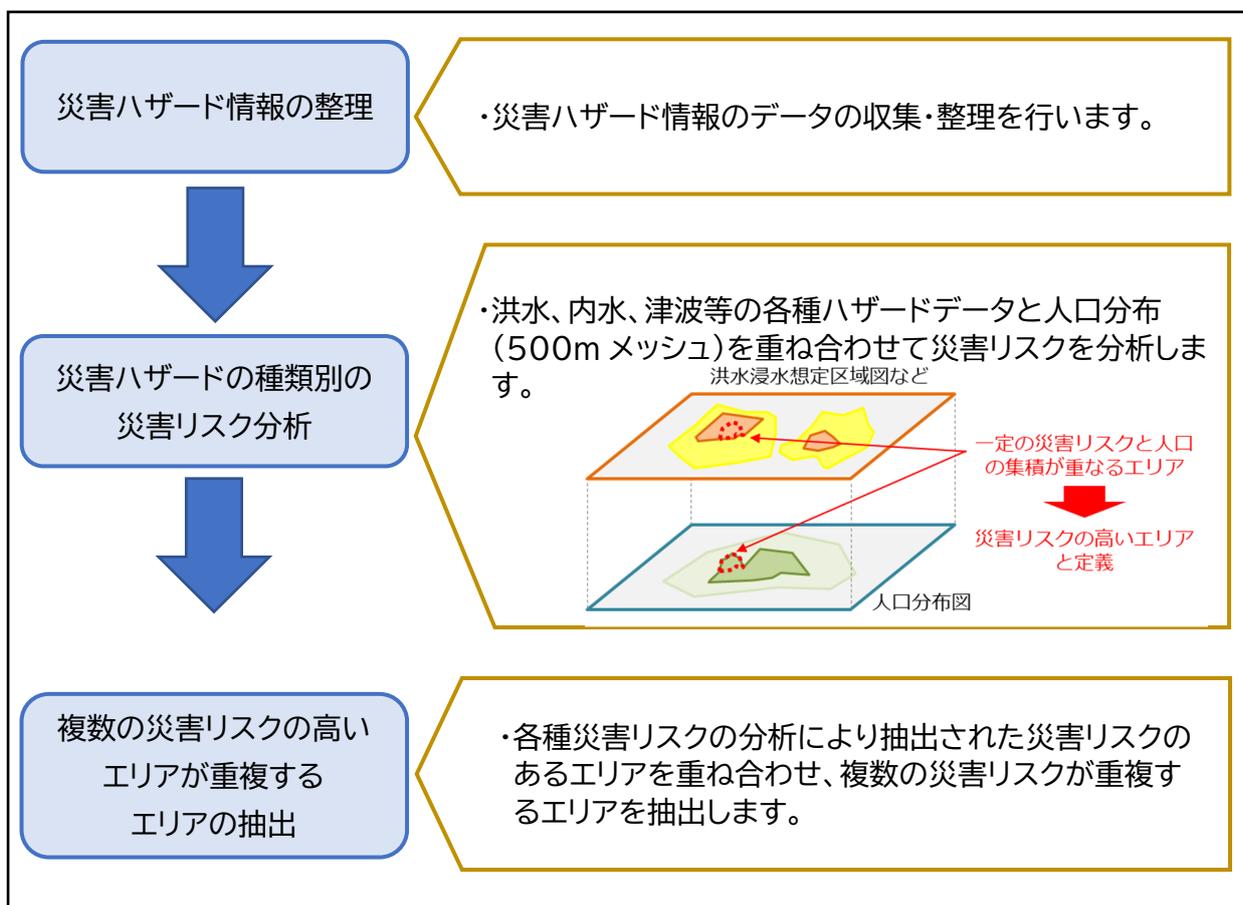
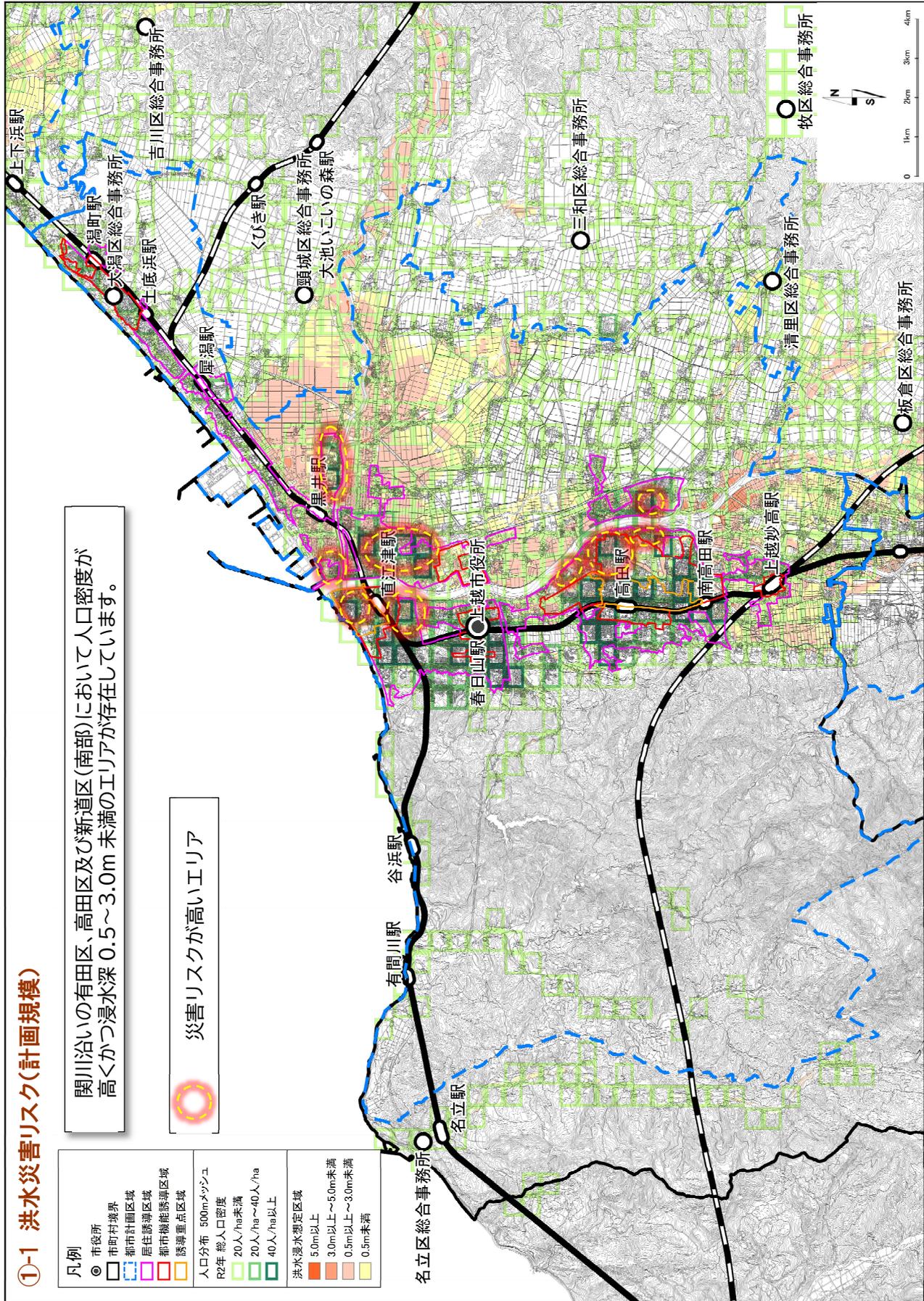


図 マクロ分析の流れ

8-5-2 災害ハザード別災害リスク分析



①-2 洪水災害リスク(想定最大規模)

凡例

◎	市役所
□	市町村境界
□	都市計画区域
□	居住誘導区域
□	都市機能誘導区域
□	誘導重点区域
人口分布 500mメッシュ	
R2年 総人口密度	
20人/ha未満	緑
20人/ha～40人/ha	黄
40人/ha以上	赤
洪水浸水想定区域	
5.0m以上	赤
3.0m以上～5.0m未満	黄
0.5m以上～3.0m未満	緑
0.5m未満	白
家屋倒壊等氾濫想定区域	紫
河岸侵食	紫
氾濫流	黒

計画規模で抽出された地区に加え、直江津区及び高田区(南部)において人口密度が高くかつ浸水深 0.5m～3.0m 未満のエリアが存在しています。

災害リスクが高いエリア